令和8年度　学校評価表 【自己評価】

三次市立甲奴小学校

経営理念（ミッション・ビジョン）

・甲奴中学校区コミュニティ・スクールとして小中一貫教育を推進し，保護者・地域とともに将来を担う児童を育成する。
・変化の激しい社会の中で，グローバルな視点をもち，国籍や互いの立場の違いを超えて，協調し協働して生きていくことができる力をつける

＜学校教育目標＞
「文武両道」
すすんで　きたえ みがき　のびる
～社会の変化に対応できる，心豊かでたくましい子どもの育成～
＜めざす学校像＞
○すすんで ……子供の主体性を伸ばす学校
○きたえ・みがき……個々の持ち味を発揮させる学校
○のびる……得意なことを引出し，自信を持たせる学校

＜甲奴中学校区のめざす子供像＞
「ふるさと甲奴を誇りに思い，自らの未来を切り拓いていく子供」
＜甲奴小のめざす子供像＞
何事にも全力を尽くし「文武両道」をめざす子供
☆自分が好き・・・夢（目標とする姿）を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供
☆友だちが好き・・・友だちのよさを見つけ，自ら進んで一緒に働き，遊び，学ぶ子供

評価計画						7月			12月			自己評価			学校関係者評価	
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標（効果を見とる目安）【担当】	目標値	達成値	達成度	評価	達成値	達成度	評価		結果の分析	改善策	評価	コメント
確かな学力の育成	全国水準の学力をつける（知識・技能，思考力・判断力・表現力，学びに向かう力の育成）	○基礎的・基本的知識・技能の習得と定着	・相互に授業参観し，児童が主体的に学び合う授業作りを行う ・朝学習を活用し，基礎・基本の向上を図った授業改善を行う	評価テスト（低：国語・算数　中高：国語・算数・社会・理科）で学級の平均点が80点を上回る割合。【石村】	国語100% 算数100% 社会100% 理科100%	国語100% 算数100% 社会100% 理科100%	100% 100% 100% 100%	A A A A				確かな学力の育成	・すべての評価テストにおいて、目標値（100%）を達成した。教科ごとの平均点は、国語87.3点、算数86.0点、社会84.5点、理科85.6点であり、全体として目標を上回る成果が見られた。一方で、児童一人一人の学習状況には個人差が見られる。 ・朝学習を計画的に実施したことに加え、学期途中には低・中・高学年ごとに授業参観及び事後研修を行い、成果や課題を共有することで授業改善を推進した。こうした継続的な取組が、学力向上につながったものと考えられる。	・今後も児童が学習の到達目標（ファイナルタスク）を意識して学ぶことができるよう、授業改善を継続して推進する。また、児童一人一人の学習状況に応じた個別指導や実態に即した指導の充実を図る。さらに、全国学力・学習状況調査の分析結果を踏まえ、全学年・全教科で共通して取り組む指導事項を確実に実践する。加えて、学年ごとの授業参観及び事後研修を継続的に実施し、協議・交流を通して授業改善につなげる。 ・計算力や漢字の書き取りなど、基礎的・基本的な学力の一層の定着を図るため、朝学習の時間を継続して実施する。児童の状況を把握しながら、個に応じた支援を充実させ、基礎学力の確実な定着を目指す。		
		○対話のある授業づくりによる思考力・判断力・表現力の育成	・ファイナルタスクを意識した授業づくり及び授業実践を行う ・児童間の対話による深まりを意識した授業づくり及び授業実践を行う	教科アンケートにおいての肯定的回答の割合。（児童アンケートによる）【高石】	児童80%	95.0%	119%	A					・7月の児童アンケートにおいて、主体的な学びを促す授業づくりの項目において92.6%の肯定的な回答があった。児童間の対話や関わり合いに関する項目において96.7%の肯定的な回答があった。 ・本校が取り組んでいるファイナルタスク（単元のゴール）やわかるための教具等の手立ての工夫、共生的な集団づくりのための授業内外での様々な取組が要因として考えられる。 ・めあてやまとめを児童の言葉からつくる授業づくりは多くの学年でできている。一方で、学年ごとによる意識の差も見られるため、どの学年も今よりさらに質の高い授業を行えるような取組を行っていく。	・研究授業の推進を行う。全学年1回以上学習指導案を作成した授業を行い、全教職員による改善案のもと、授業力の向上に努めていく。大学の先生や教育委員会の方も招聘し、最新の理論について研修する機会を設ける。また、担任同士で授業を見合う場を定期的に設定し、各担任の指導の工夫を見ることができるようにする。 ・業務改善により、空いた時間を教材研究にあてられるような研修の質を高め、時間を短くするような研修計画を提案し、教員の時間の確保に努めていく。		
		○学びに向かう力の育成	・児童の知的好奇心を喚起する学習課題を設定する ・子どもたちの学び合いを行うための手立てを工夫し実践する	教員による授業参観を前期・後期それぞれ2回以上行う。【門田】	教師100%	100%	100%	A					・1学期は自閉情緒特別支援学級の研究授業を行い、講師を招聘して事後研修を行った。また、低・中・高・特別支援の2学級ずつに分かれ、お互いに授業を参観し合い、どう工夫したら「楽しくわかる・できる」「認め高め合う」児童の育成ができるか研修を行った。	・引き続き、児童の実態を把握し、どんな課題が見られるかを分析した上で、どのような手立てをすれば「楽しくわかる・できる」「認め高め合う」授業を作れるかについて、職員間で研究授業を行い研修していく。		
豊かな心の育成	規範意識を高め，思いやりの心を育成する	○規律ある学校生活 あいさつ 返事 整理整頓 無言掃除 無言移動 無言集合	・一斉下校、朝会時等における全体指導 ・挨拶は、「じぶんから・だれにでも・いつでも」「先言後礼」を徹底する ・「挨拶運動」や「掃除の仕方朝会」等、児童会で主体的に取組ませ、自治能力を高める	・「あいさつ（先言後礼）・返事・整理整頓・無言掃除・無言移動・無言集合」に関する生活アンケートで肯定的に自己評価する児童の割合	80%	90%	113%	A				豊かな心の育成	・挨拶、返事、無言集合、整理整頓、チャイム席、4月から意識して取り組む児童が多く見られ、児童自身が進んで取り組んでいる。また、あいさつ＋1の木にシールを貼るなど具体物を活用した取り組みもできた。挨拶、返事、無言集合、整理整頓、チャイム席を意識させるため、全体朝会や一斉下校、放送などで評価をすることができた。そうじ時間も一生懸命活動でき、そうじ後に放送で評価することもできた。	・チャイム席は月一回実施することができた。学校平均96%以上のことから、2学期はノーチャイムdayを設定する。 ・○○の木（児童への啓発掲示版）では、教師主体で取り組んでいたが、児童会中心に活動していく。		
				・教職員の見取り調査の割合【中島】	70%	79%	112%	A								
		○思いやりの心の育成	・ふわふわ言葉の常態化をめざす生活指導 ・にこにこボックスの活用の充実 ・道徳の時間の充実	・「思いやりの心」に関する生活アンケートで肯定的に評価する児童の割合【長明】	80%	92%	116%	A					・児童の肯定的評価が高く、困っている友達に声を掛けることができる児童が多く見られる。にこにこボックスの活用にも、全学年が取り組み、低学年も取り組むことができていたが、一部の児童、学年に偏りが見られる。 ・児童会を中心に異学年と交流を図る活動を推進した結果、「優しい言葉で話す」「他学年の友達と遊ぶ」項目で、肯定的評価をしている児童が前回より多く見られた。 ・指導者の見取りを見ても、肯定的に評価している割合が多く見られる。	・引き続き、にこにこボックスを活用したり、児童のよい所を全校や学級で紹介したりすることを行っていく。 ・相手を思いやる言葉遣いを常態化するために、学年の実態に応じて学級での指導を引き続き行うとともに、また、よい言葉かけをしている児童を称揚するなど、全職員が取り組んでいく。 ・各学年でレクを行う時に他学年を誘うなど、関わりを増やすように、実態に応じて行っていく。 ・道徳の時間を活用し、思いやりの心を育成していく。		
				・「思いやりの心」育成に関する教職員の見取り調査の割合・保護者アンケート結果（4段階評価の平均値）【長明】	70%	84%	120%	A								
健やかな体の育成	自ら目標をもち，進んで体力の向上，健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる	○体力の向上	・外遊びの推奨 ・子ども達の休憩時間を確保し朝会で元気っずタイムを実施する ・水泳記録会、ランランフェスティバル大会、自己目標の設定 ・対外的な陸上記録会等に積極的に参加 ・体力つくり活動を充実させる	・「運動遊び」に関するアンケートでの肯定的に自己評価する児童の割合【三河内】	80%	91%	114%	A				健やかな体の育成	・1学期は体育館が使用できる日には学年ごとにレクを企画して体育館内で体を動かすことができた。また、運動場に出て体を動かす児童の姿を見ることもできた。結果は91%となり、目標を大きく上回ることができた。 ・朝元きっずでは先生方が企画した様々な運動を行うことで体を動かすことができた。	・2学期からも積極的に児童に運動を呼びかける声掛けを行っていく。 ・夏は暑さ指数により外で遊ぶことができないこともあるので教室で運動ができる運動遊びを企画するなどして児童が体を動かせるようにしていく。		
				・水泳記録会，ランランフェスティバルにおいて自己目標を達成した児童の割合【大舘】	80%	71%	88%	B					・1学期は水泳目標達成の割合を見た。結果としては、71%となり、目標値を下回った。児童の実態にあった目標設定が十分ではなかったと考えられる。	・児童が自分にあった目標を設定することができるように、練習段階から記録やタイムをとって、目標設定の目安を用意するとともに、その結果をもとに目標を見直す時間を設ける。 ・見学者の記録証も必要。 ・天候の関係から来年度は、6月実施3～6時間目、7月実施1～4時間目に行う。		
		○健康的で規則正しい生活の実践	・朝食、生活リズムについて全体指導をする ・生活リズムアンケートによる基本的生活習慣の実態把握 ・アウトメディアデーの実施	・生活リズムアンケートで，肯定的に評価する児童の割合【平木】	80%	78%	98%	B					・平日はすべての項目で肯定的評価が80%を超えていた。 （就寝時刻：87%、起床時刻：88%、朝食摂取：98%、メディア視聴時間：87%、ストップナイン：92%、学習を始める時刻：80%、学習時間：92%） ・休日は肯定的評価が80%以上の項目がひとつしかなかった。 （就寝時刻：64%、起床時刻：60%、朝食摂取：95%、メディア視聴時間：56%、ストップナイン：77%、学習を始める時刻：62%、学習時間：55%） ・児童が自分で決めた目標を意識して生活している様子が見られたと多くの保護者からの振り返りがあった。	・2回目の生活リズムチェックを11月に実施するため、それまでに生活リズムに関しての指導や掲示物の作成を積極的に実施する。 ・特に、生活リズムに課題のある児童に対しては、職員・家庭と連携をしながら継続的に声掛けを実施する。		
				・アウトメディアに取り組めたと肯定的な評価をした児童の割合【平木】	80%	94%	118%	A					・積極的にアウトメディアを実施できており、肯定的評価は94%であった。 ・アウトメディアデーでは、各月の取組を楽しんで実践している様子が、児童または保護者の振り返りでみられる。	・引き続き、月に1回のアウトメディアデーを実施し、メディアと上手く付き合うことのできる児童を育成していく。 ・取り組み内容は児童が家庭でも楽しく取り組むことができる内容とし、意欲的にアウトメディアに取り組むことができるようにする。		
信頼される学校	安全・安心で信頼される学校をめざす	○危機管理の徹底と指導力の向上	・不祥事の防止（体罰・セクハラ等を生起させない） ・授業研究等における指導力の向上 ・コミュニティ・スクールの推進	・教職員アンケート（9番・10番）での，肯定的評価【教頭】	85%	96%	113%	A				信頼される学校	・教職員アンケートの「不祥事防止研修を通して自分の行動を戒めるようにしている」と「他の職員と協働して仕事を進めている」の項目において肯定的な評価がそれぞれ100%と92%であった。	・職員による不祥事は学校教育の根幹である「信頼」を著しく低下させるものであり、絶対生起させてはいけない。引き続き、不祥事防止のための研修と風土づくりを継続して取り組む。また、職員にも安心安全な職員室環境作りを行いストレスを軽減する。		
				・指導力の向上について，保護者アンケートでの，肯定的評価【教頭】	85%	96%	113%	A					・保護者アンケートの「教職員は子供が進んで学び合えるよう工夫して指導を行っている。」の項目において肯定的な評価が96%。また、「子供は授業が分かりやすいと言っている。」項目については肯定的100%だった。	・「学力」を教科学力だけに捉えず、友達との関りや生活していく上で必要な力と捉え、学校生活全般で達成感や満足感を増やしていく。 ・授業交流や中学校区での研究会を継続し、相互評価することで指導力の向上を図る。		
				・学校運営協議員会委員等による学校運営のアンケートでの肯定的評価【教頭】	85%	99%	116%	A					・7名の評価委員の内、全ての方から「自己評価は適正である」という評価を得た。 ・評価委員の方に理解していただきやすいように資料提示したり、専門的な用語について説明した。	・評価委員を含めた外部の人材（講師・地域の方等）に児童の様子についての情報を発信したり、参観していただく機会を設けたりしながら、地域に開かれた学校をめざす。 ・今後とも継続して誰にでも分かりやすい評価表にしていく。		